

暑い、熱い磐周大会！

6月18日(土)から始まった磐周大会の結果をお知らせします。大会では、生徒たちの精一杯のプレイが見られました。今まで、この大会に向けて練習し、それを全て出し切った努力の成果です。喜びも、悔しさもすべて糧とし、中学校生活のよき思い出にしてほしいと思います。

【野球部】 0-2 福田

【バレーボール部】 2-0 袋井南 2-0 豊岡(予選リーグ1位)、

2-0 浅羽 2-0 森 0-2 神明(ベスト4)、0-2 袋井(3決) **磐周第4位**

【サッカー部】 0-0(PK3-4) 磐田第一 0-8 豊田

【男子バスケットボール部】 37-77 浅羽 39-59 森

【ソフトテニス部】 団体 2-1 磐田第一 2-1 豊田南 3-0 袋井(予選リーグ1位)

2-1 神明 1-2 福田(ベスト4)、1-2 豊田南(3決) **磐周第4位**

個人 ベスト16 平澤・岡本ペア 松下・大西ペア 井田・湯前ペア

【男子卓球部】 団体 2-3 福田 3-0 豊田南(予選リーグ2位)、0-2 竜洋(決勝T)

個人 芳野(磐周10位)

【女子卓球部】 団体 3-0 袋井 3-1 豊田南 2-3 南部(予選リーグ1位)、1-3 浅羽(決勝T)

個人 小林(磐周11位 県大会出場)

【男子剣道部】 団体 2勝2敗1分 浅羽 0勝4敗1分 南部

※団体で県大会に出場する女子剣道部、女子バスケットボール、西部大会のある水泳部の結果は後日お知らせします。



中学校の部活動は、転換期を迎えようとしています

周南たちばな学園 周南中学校長 柴田 禎弘

中体連・磐周大会も23日の陸上競技を残すのみとなりました。県大会へ進出する生徒もありますが、3年生の多くは夏休み前に一つの区切りを迎えます。勝って満面の笑みで抱き合う生徒や、止まらない悔し涙をぬぐうこともなく唇をかみしめる生徒の姿が見られました。普段の学校生活では学べない、部活動だからこそ学ぶものがあると改めて思いました。個人的には、悔しい思いをした生徒ほど、人間的には成長するように感じています。

さて、「来年から中学校の部活動はなくなるって本当？」という心配される声を聞きました。結論は、「なくなりません」です。ただ、令和 5～7年の3年間で「休日の部活動の地域移行を進める」という提言をスポーツ庁「運動部活動の地域移行に関する検討会議」は出しています。課題は山積みですが、その方向で動いていくでしょう。

これまでも、文部科学省は部活動を「必ずしも教員が担う必要のない業務」とし、教員に代わり引率、指導できる外部指導員の制度を設けました。(周南中は3部活で外部の方のお力を借りています。)

少子高齢社会の進展や AI の進歩による産業構造の大変革に加え、ここ2年間のコロナ禍やウクライナ情勢が与えた緊迫感を考えたとき、一人一人の生徒を「持続可能な社会の創り手に育てる」という学校の使命はより切実なものとなりました。

その使命を全うするためには、中学校が、これまでのように部活動を抱え込むには限界が来ているのは事実です。加えて、全国的に進む少子化とスポーツの多様化により、「学校にはやりたい部活がない」状況も生まれつつあります。

今年度、周南中は3年生が引退した後、近隣の中学校の多くが行っているように、月曜日を部活動なしとしていきます。背景に、教員の働き方改革があることは事実ですが、それ以上に「生徒自ら考え、自ら判断して行動する力」をつけるための月曜日にしたいと考えています。自主的に体力づくりをしたり、ネットなどで競技力をつける情報を得たり、積極的に休養に充てたりするなど、一人一人の生徒に目的をもった過ごし方を考えさせたいと思っています。

来年度から段階的に部活動の休日の地域移行は始まると言われていますが、部活動そのものはなくなりません。しかし、大きな転換期にあることは事実です。今後の部活動について、保護者の皆様の御意見をお寄せください。

※右の QR コードからお入りください。

<https://forms.gle/u66HfYvuT7iCUE8X9>

